１６．八十里越（はちじゅうりごえ）

選定箇所：叶津（福島県只見町）～田代平（新潟県魚沼市）※１～吉ケ平（新潟県三条市）※２

概要：明治時代後期まで、新潟県中越地方北部と福島県会津地方を結ぶ街道として利用された。八十里越の名は、実際の距離は八里にも関わらず、険しさ故に八十里にも感じられることに由来するなど諸説ある。三つのルートが確認されており、天保１４年（１８４３）改修の道（古道）、明治１４年開削の道（中道）、明治２７年開削の道（新道）がある。戊辰戦争の長岡城奪還戦で長岡藩家老の河井継之助は敵弾に倒れた。彼が会津へ担送される途中、番屋山に続く里眺めにて自嘲的に詠んだ句が「八十里こし抜け武士の越す峠」である。その先、木の根峠から叶津への短路は河井新道として痕跡を留める。越後から金物類、魚類（塩物、干物）や米、塩、服などが輸入された。只見町側からは干しゼンマイ、麻苧、蚕種、生糸などが輸出され物資の流通で重要な役割を果たした道である。

※１【魚沼市】今期は熊出没のため、入山規制が敷かれている。秋までの状況では、福島県木の根峠方面へは安全に行くことができるが、田代平へ続く林道に過去の水害により崩落している箇所があり、危険な状態。令和２年度は、田代平の測量・田代小屋跡の発掘を実施し、このときにロープを張るなどの整備点検を実施予定。

※２【三条市】吉ケ平から鞍掛峠までの区間は、現在未整備のため通行不能。特に椿尾根～鞍掛峠間は、過去の大水害で崩落個所などが多数あり、一般の方が入って歩かれるには、とても危険な箇所となっている。県道ゲートは１１月中旬から５月下旬までの期間は閉鎖される。

八十里越（十八坂の九十九折）（三条市）